

## 第2章 罪の懺悔

1. その宝のような心を維持するために、如来たち、正法、汚れなき〔三〕宝、仏陀の息子（菩薩）たちなど功德の海に対して善く供養するべきである。
2. あらゆる花と実、あらゆる〔樟脳や白檀など〕様々な薬、〔真珠、トルコ石、珊瑚など〕この世に存在するあらゆる宝石、〔八つの徳質を持つ〕清らかで心地よいあらゆる水、
3. 〔所有者のない〕宝のような山、同様に、静謐で快い歓喜の森、樹や花などで美しく飾られた場所、魅力的なよい実がなって〔夏は〕枝がたわむ樹、
4. 世間の神々〔やナーガなど〕もまたよい香りがし、線香、如意樹、宝石の樹、自生の様々な穀物、その他供養に値する装飾品、
5. 蓮華に飾られた湖や池、妙なる美しい声で鳴く〔姿も〕魅力的な水鳥、限りない虚空に存在する所有者のないすべてのものを、
6. 心で作りに出して、すべての人の中で最もすぐれた方である牟尼と菩薩たちに善く捧げる。聖なる福田であり大悲を持つ方々が私に憐れみをかけられ、これらの供物を受け取ってくださいますように。
7. 私には福德もなく、ひどく貧しい。ほかに供養する財産を私は持っていない。それ故、利他〔のみ〕を考えておられる守護者たちよ、〔私が心で作りに出した〕これら〔の供物〕を私のためにあなたのお力で受け取ってくださいますように。
8. 私は勝利者（仏陀）とその息子たちに、私のからだをすべて〔心から〕捧げます。最勝なる菩薩たちよ、〔慈悲のお心で〕私のすべてを常に〔悟りに至るまで〕受け取ってくださいますように。敬意を持って、あなたのしもべとなり、
9. 私のすべてはあなたのものであるので、この輪廻において〔利他を成し遂げるため〕怖れることなく有情を利益いたします。以前になした罪ある行ない〔の過失を見て、それ〕を完全に克服し、これからは他の罪を犯すことはいたしません。
10. 浴室は大変よい香りがし、水晶の床は〔拭き磨かれて〕明るく輝いている。宝石が輝く魅力的な柱があり、真珠の光り輝く天蓋が広げられているところで、

1 1. 如来と〔その息子である八大〕菩薩たちに、宝石でできたたくさんの水瓶に香りよい水を美しく善く満たし、多くの歌と音楽などとともに沐浴して下さるよう請願する。

1 2. 〔そのあと〕その方々のおからだを、比類なき清らかで善い香りのする布で拭く。そしてその方々に色よく染められた非常によい香りのする聖なる衣を捧げる。

1 3. 善く、薄く、滑らかでさまざまな色の衣と百の最高の飾りによって、聖者である普賢菩薩、文殊菩薩、観自在菩薩などを飾りなさい。

1 4. 三千世界にあまねく芳香が立ちこめ、最高の香りによってすべての牟尼たちのおからは磨かれた純金のように光り輝いている。その〔おからだによい香水も〕塗りなさい。

1 5. 牟尼は最もすぐれた供養の対象である。その〔方と菩薩たち〕に対して、美しい曼陀羅華、蓮華、優曇華（ウッパラの華）などすべてのよい香りと、美しい花の首飾りなどを供養する。

1 6. よい香りのする最高の線香の香りが遍満し、その香りの雲の集まりもみなその方々に捧げる。食事には様々な食べ物や飲み物と、神々の食べ物もこの方々に捧げる。

1 7. 黄金の蓮華〔の器〕が並んだ宝のような灯明も捧げなさい。大地を清めて香を撒き、美しい花びらを撒き散らさなさい。

1 8. 無量なる宮殿には美しい称赞の音色が響き、真珠や宝石で飾られて美しく輝いて、限りない虚空の飾りとなる。それらも慈悲の本質を持つ方々に捧げなさい。

1 9. 美しい宝石の傘の柄は黄金で、周囲の飾りは美しく魅力的で、形良く、見目良く立てられている。これらのものも常に牟尼たちに捧げなさい。

2 0. これ以外にも供物の集まりとして、快い響きの美しい音楽が有情たちの〔からだと心の〕苦しみを和らげ、〔心に幸せを与える〕たくさんの雲がそれぞれの場所にとどまりますように。

2 1. 最勝なる仏法、仏舍利塔、仏像などのすべてに、宝石や花などの雨が途切れるこ

となく降り注ぎますように。

22. 文殊菩薩などが勝利者（仏陀）たちに供養されたのと同じように、私も如来、守護者、仏陀の息子（菩薩）たちすべてに供養いたします。

23. 海のような〔限りない〕功德を持つ方々に、私は美しい音色を持つ海のような称赞の言葉を捧げます。その方々に対して、常に快い称赞の音色が雲のように確実に生じますように。

24. 三世にましますすべての仏陀たちと、仏法、最勝なる集団に、大地の微粒子の数と同じだけの〔はかりしれぬ数の〕からだを現わして私は礼拝いたします。

25. すべての菩提心の基盤（以前釈尊が赴かれ、とどまられたブッダガヤ、ベナレスなどの聖地）と（如来の舍利が納められた）仏舍利塔に私は礼拝いたします。守護者、阿闍梨（師）、〔三乗の修行道を実践する〕最勝なる苦行に〔とどまり、菩薩の地に至った方々に〕礼拝いたします。

26. 悟りの心髄に至るまで、すべての仏陀たちに帰依いたします。仏法と菩薩たちの集まりにも同じように帰依いたします。

27. 十方位にまします完全なる仏陀（正等覚者）、菩薩、大悲を持つ方々に合掌して祈願し、

28. 始まりなき輪廻において、今生や他の生で私が知らずに犯した罪や、〔他者に〕犯させた〔罪〕、

29. 無知に惑わされて私の心が挫け、〔罪を犯したことを〕喜んだことなどすべての過ちを見て、心の底から守護者に懺悔いたします。

30. 私は三宝、両親、上師（ラマ）、そして他の人々に、煩惱による身口意の行ないで害を与えた。それらのすべてが、

31. たくさんの罪によって過失となり、罪深い私はなしたどんな罪の報いにも耐えられない。このすべてを指導者たちに懺悔いたします。

32. 私がなした罪を浄化する前に死んだなら、そ〔の罪〕からどうやって確実に逃れ

られるだろうか。できるだけ速やかにお守りくださいますように。

33. 死の神ヤマ（閻魔王）は、〔罪を浄化〕したかしないかにかかわらず、病気かどうかにかかわらず、突然〔訪れるのだから、自分の〕寿命を信頼することはできない。

34. すべてを捨てて〔ひとりで〕行かなければならないのに、私はそれを知らず、親愛なる者〔を守る〕ためや、親しくない者〔を打ち負かす〕ために様々な罪を犯している。

35. 親しくない者も死に、親しい者も死ぬ。私自身も死ぬのであり、このようにすべての人は死んでいく。

36. 夢の中の体験のように、実際にどんなことをしたにしろ、それらは記憶の対象でしかなくなる。過ぎ去ったことはすべて、もう見ることはない。

37. 生きている今〔の人生〕でも、多くの親しい者や親しくない者が死んでいく。彼らのためになした罪〔の結果〕は耐え難く、〔罪を浄化しなければいつでもすぐに結果を生む力が〕目の前にある。

38. このように、私は突然〔死は訪れる〕ということを理解せず、無知、執着、怒りによって様々な罪を数多く犯した。

39. 昼も夜も〔一瞬たりとも〕とどまることはなく、今生の時間は常に残り少なくなっていく、〔寿命を〕加えることはできない。私のような者が死なないことなどどうしてあろうか。

40. 私が〔死の〕床にいる時、すべての親戚や友人たちに囲まれていても、命が尽きたという〔苦の〕感覚は、私がひとりで体験することになる。

41. 死の神ヤマ（閻魔王）の使者に捕らえられた時、親戚が何の役に立つというのか。友人が何の役に立つというのか。その時、〔自分が積んだ〕福德だけが守ってくれるのに、それにさえ私は依存しなかった。

42. 守護者よ、不注意（放逸）な私はこのような恐怖を知らずに、無常なる今生のために多くの罪を犯した。

43. 人の手足が切断される場所に、今日私は連れて行かれることになり、口が渴き、目の脈管が衰えるなど、以前と違う変化が起こる時、

44. 大変恐ろしいからだを持つ死の神ヤマ（閻魔王）の使者が〔私を〕つかむ。大いなる恐怖の病に打ちのめされ、ひどい窮苦〔を味わうこと〕は言うまでもない。

45. 誰がこの大いなる恐怖から私をよく守ってくれるのかと戦慄し、恐怖で見開かれた目で四方を見て守護を求めるが、

46. 四方に守護がないことを見て、それから心は常に憂鬱になる。そこに守護がないのなら、その時私はどうすればいいのか。

47. それ故、勝利者（仏陀）は有情の守護者であり、有情を守るために努力されている。偉大な力ですべての恐怖を取り除いてくださる方に、今日この時より帰依いたします。

48. その方（仏陀）がお心に理解された輪廻の恐怖を取り除く〔最勝なる仏法〕と、〔そのような経典の教えと体験に基づく教えを実践する〕菩薩の集まりにも、このように正しく帰依いたします。

49. 私は〔悪趣の〕恐怖におののき、〔強い祈願の力を持つ〕普賢菩薩に私を捧げます。私は文殊菩薩にも、〔自ら喜んで〕私のこのからだを捧げます。

50. 大悲により、誤ることなく〔利他の〕行ないをされる〔有情の〕守護者観音菩薩にも、窮苦の叫びをあげて助けを呼ぶ。罪深い私をお守りくださいますよう祈願いたします。

51. 聖なる虚空蔵菩薩、地蔵菩薩、大悲を持つ守護者のすべてに帰依を求め、悲痛な声で助けを呼ぶ。

52. 〔それを〕見たならば、死の神ヤマ（閻魔王）の使者たちは怒り、怖れて四方に逃げていく。金剛を〔手に〕持つ方（金剛手）にも、〔悲痛の声をあげて助けを呼び、〕帰依いたします。

53. 以前あなたの教えを守らず、今、大いなる恐怖を見た。今あなたに帰依をして、恐怖をいち早く取り除いてくださるよう祈願いたします。

54. ごく普通の病気さえ怖れて医者言葉に従うならば、欲望や執着など百もの過失（煩悩）という病気については言うまでもない。

55. [菩薩に対して起こした] ただひとつの [怒り] だけでも、この世界に住むすべての人たちを滅ぼしてしまうなら、それを癒す [対策や瞑想方法など、仏陀の教え以外の] 他の薬はどこを探しても見つからない、と言うならば、

56. [煩悩という病] に対して、医者である一切智者はすべての痛みを取り除かれる。ゆえに、教えに背こうという考えは甚だ無知なことであり、非難されるべきことである。

57. ごく普通の小さな崖でも注意すべきならば、千由旬もの長い距離を落ちて地獄に至るような深い崖については言うまでもない。  
(由旬〈ゆじゅん〉とはインドの距離の単位。両手を広げた長さの4000倍。約8キロ)

58. 今日だけは死なない、と [考えて] 安楽に過ごすことは正しくない。私が [死んで] なくなる時は、疑いなく確実にやってくる。

59. 誰が私に恐怖のない心（無畏）を与えてくれるのか。どうやってこれ（恐怖）から確実に逃れられるのか。[死が訪れて私が] なくなることは確実なのに、どうして私が [怠惰などの不注意によって] 安楽に過ごせようか。

60. 以前に [私が輪廻で所有し] 体験したものは滅した。私に [心髄のある所有物など] いったい何が残っているだろう。私はそれ（心髄のないもの）に執着し、上師（ラマ）の教えに背いた。

61. 生きている今の生や、親戚、友人たちさえ捨ててひとりでどこかに行かなければならないのなら、親しい者も、親しくない者も、すべてはいったい何の役に立つというのか。

62. 悪い行ないから苦しみが生じる。どうやってその [苦しみ] から確実に逃れられるのかと言うと、昼も夜も常に私がこれ（因果の法）のみを考えることが正しい。

63. 私は [因果の法を] 知らず、無明であるために、[戒律とは無関係に悪いことをして] 犯す罪や、破戒（戒律を受けてそれを破ること）によって犯す罪、そのどちらも犯してしまった。

64. 守護者の御前で合掌し、苦しみを怖れる心で何度も何度も礼拝し、それらのすべてを懺悔いたします。

65. 指導者たちよ、私の罪と過ちをよく受け取ってください。これはよい行ないではないので、今後私は〔命に代えても〕決していたしません。